

○ 赤田川の水質悪化への対策について

赤田川の水質（特に有機物による汚濁）を示す指標が悪化しており、これについて短期～長期の対策が必要となっているもの。

【経緯】

赤田川は、合併前（地元3区長から加茂町長への要望等、H14頃から記録あり。）から水質悪化が見られ、木津川市・奈良市で継続的に水質調査を行っている。

水質悪化の原因特定は困難であるが、上流の奈良市域にある「養豚場」「産業廃棄物処分場跡地」の影響が考えられる。

奈良市環境部局（～H27環境政策課／H28～保健所）には、かねてから原因者の特定と水質改善に向けた対策を依頼しており、その指導の結果、養豚場が浄化槽の設置をする等の進展があったが、水質の抜本改善には繋がっていない。

（村田養豚場）

県境（奈良市東鳴川町）に立地。過去に、ビニール袋・飼料（残飯）の河川流出事故を起こしている。経営者は以下のように主張し、強い反発を示している。

- ①し尿処理施設の設置など、水質改善に向けて法的義務を上回る努力をしている。
- ②養豚場が谷底に立地し、木津川市の里道管理等が不適切であるため、大雨の際、雨水が場内に流入し、飼料（残飯）等が河川に流出してしまう。
- ③京都府域にある砂防堰堤の管理が不適切で、水質悪化の原因となっている。
- ④養豚場上流の産廃処分場跡地等の影響があるのではないか。

※他に里道の無許可占有、犬の放し飼い、野焼き等のトラブル有

（松谷産業廃棄物最終処分場跡地）

県境から約1kmの地点に立地（奈良市法用町）（S61年埋立開始・H19年6月廃業）。H20年に事業者が行方不明となり、法的義務である維持管理（排水処理）を中止し、未処理排水が赤田川に流入。

奈良市は継続的に水質監視を行っており、有害物質等は、環境基準（健康項目）に定められた範囲内。環境基準（生活環境項目）の全窒素、BOD等は基準を超過しているが、希釈されるため問題ないとの認識。

（直近の赤田川の状況）

平成28年12月の水質測定で、有機物汚染の指標であるBOD/CODが高い値を示す。監視体制を強化して、4半期毎の定期水質調査に加えて、毎月の追加調査を実施した結果、2月、3月の調査で、BOD/CODが高い値を示した。

広範囲で、有機物の付着・川底土の変色、泡の浮遊、悪臭等が認められる。

下流域では、赤田川の水を農業用水に利用しており、生活環境への影響に加えて、稲作等への影響等についても留意が必要と考えられる。